

# 新年を迎えて各会派の抱負

## 台東区議会自由民主党・無所属の会

「素早い判断」「迅速な行動」  
「早期に解決」



この3つの柱は、先の東日本大震災の復興、並びに台東区の防災対策を進めるにあたり、最も重要なポイントです。「台東区議会自由民主党・無所属の会」は、今年も区民の皆様にお話をうかがい、地道な調査・研究を重ね、災害に強い、安全・安心なまちづくりを早急に進めていきます。あわせて福祉、教育、産業、環境、文化・観光などの充実にも力を注ぎます。新たな時代の流れを積極的に取り入れながらも、文化や伝統を尊重し、誰もが暮らしやすく働きやすい、台東区らしい活気あるまちづくりを目指します。

### 子育て／福祉／教育／産業／観光／環境／防災

**安全・安心なまちづくり**  
防災力・防犯力をさらに向上させ「安全」なまちづくりを進めます。区民の健康増進を図るため、医療／福祉／社会保障などの連携を深めた「安心」を目指します。

**子育てするなら「台東区」**  
新学習指導要領本格実施に合わせたIT機器の有効活用、こどもクラブの充実など教育への積極的なサポート。また、いじめを絶対許さない体制を整備し、次代を担う子どもたちのために、学校教育・幼児教育の充実を目指します。

**千客万来の元気なまちづくり**  
東京スカイツリー開業など新たな観光事業に目を向けながらも、台東区ならではの歴史や文化、伝統を活かして、暮らす人にも、働く人にも、訪れる人にも魅力あふれる「国際文化・観光都市」を目指します。

**私たちは「戦う政策集団」です！**  
区民の皆様からご意見をうかがい、「行政がやるべきこと」「民間に委ねること」をしっかりと見極め、透明性・公正性を高めて効果・効率のよい積極的な「区政」を目指します。

## 台東区議会区民クラブ

命を守り、絆を育み、  
安全・安心をつくる台東区の実現



新年をお祝いし、区民の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。  
私たち区民クラブは民主党と無所属の8人で構成された会派として変わりゆく社会環境に対応し、地方自治体が担う役目を確実に推進するために、区民のさまざまな声を聞き、皆様の目線に立った政策や提案を議会活動を通じ行っております。  
今、世界を取り巻く厳しい経済情勢や社会情勢の中にも区民生活のすべての豊かさを第一に考え、命を守り、絆を育み、安全・安心をつくる台東区の実現のために、会派一致団結をして区民の皆様と一緒に取り組む決意であります。本年も、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

- 災害に強く安全なまちづくり
- 環境対策の充実
- 高齢者に優しい対策の強化
- 安心できる子育て環境の充実
- 零細・中小企業に対する支援強化

## 台東区議会公明党

安全・安心のまちづくりに全力！  
子どもたちの未来に全力！



年頭に当たり、新春のお慶びを申し上げます。  
福祉の党公明党は、結党以来、50年間「大衆とともに」との立党精神のもと、一貫して生命尊厳の「中道主義」で生活者の視点を根本に皆様の声を伺い、地方議員・国会議員が連携して多くの施策を提案し、政策実現してまいりました。  
区議会公明党は、今年も広く皆様のご意見を伺い、防災・減災のため公共施設などの老朽化対策をはじめ、子育て支援、健康づくり、環境、教育・文化、雇用問題などに真剣に取り組んでまいります。

- 防災・減災のため、災害に強いまちづくりを強化
- 孤立から支えあいの社会への総合的な対応策を強化
- 子どものための保育体制・放課後対策を強化

## 台東区議会みんなの党・無所属クラブ

時代を越えて、  
愛される区政！！



「先人達から私達の時代へ、そして未来を担う子供達へ」  
上野の山が西洋文化を受け入れることになった彰義隊以前。観音様に仲見世の原型ができる江戸時代の頃。魅力的な「上野」「浅草」に人々は集い、情に溢れた粋な心で「台東区」の基を作りました。先人達は、比叡山からの気を「上野・寛永寺」に集め、観音様と呼ばれる「浅草寺」に心の安らぎを願いました。  
目には見えないものに感謝し、敬う心。先人達は、そんな思いを持って、この地を愛し続け、「粋」と「優しい心」で町を作ってきました。

時は流れ・・・「平成」の今。  
この町が好きで、昔から住んでいる人も多くいます。そして、この町に憧れて新しく移り住む人も増えました。一方で、町会などの地域活動をする人が減ったと聞きます。コミュニティや消防団に参加する人も少なくなったといえます。  
そんな今だからこそ・・・  
たった一言でいいから、明るく隣人に声をかけましょう。  
「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」  
そんな些細な事が、忘れかけた何かを思い出させると信じます。

「我々は、いつも町を歩き、皆さんの傍らにいます。未来を担う子供達のために、一緒に語り合いたいです。」